別紙様式1

令和3年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）

三原市立本郷小学校　　校番（17）

a 学校教育目標	夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体　キラリと光る三つ巴っ子～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 地域を愛し，確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し，地域・保護者から信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	すすんで学び，よく考え豊かに表現する学力を育てる。	◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等の目標値達成率の向上 （算数科）	○学習の重点と系統性を意識した各学年の指導 ○NRTの結果を分析・活用 ○フォローアッププリント等の活用 ○三つ巴っ子タイム・チャレンジタイムの工夫・改善	単元末テスト（算数科）の平均点が80点以上の児童の割合	80	73.8%		92%	B	算数科の単元末テストの平均点が80点以上の児童の割合は73.8%だった。平均点は85.6点だったので，児童の学力差が大きいという課題がある。NRTや全国学力・学習状況調査等の結果からも，図形や資料の読み取り，計算の仕方の考えの説明などの思考力に課題がみられた。	今後も学力の定着を図るために，各学年で日常的に取組を進めるとともに，学校全体で課題と成果を交流・共有していく。また，四則計算など基礎・基本の力を付ける取組を継続していく。授業外のチャレンジタイム等の時間で個別に対応したり，，思考力を問われる問題等へ触れる機会を増やしたりする必要がある。	○			・思考力の課題は，積み上げや継続した取組が必要です。算数だけでなく全教科において課題となっていることだと思います。
		◎誰もが学ぶ喜びを感じる，主体性で対話的な学びの創造 ★ユニバーサルデザインの継続 ★論理的思考力・コミュニケーション能力　育成の場の設定	○日々の授業の工夫・改善，単元構成の工夫・改善 ○他教科・他領域との関連場面の意図的設定 ○学びの変革指導案の全員作成 ○授業モデル・本郷スタイルの継続と徹底	授業が分かって楽しい児童の割合	90	89.2%		99%	B	「算数科の授業が分かって楽しい」という肯定的評価が92%だった。本郷小学校の授業モデルを基にした研修を土台に進めることで，児童が主体的に学び，分かる喜びを感じることにつながった。しかし，「自分の考えを発表する」の肯定的評価が低いという課題がみられた。	今後も組織的に授業改善を図り，児童が主体的に学ぶ姿勢を育てていく。児童が，達成感や成長を実感するための振り返りへの取組も工夫し，共有していく。学年で話型や考えの書き方などに系統的な取組を進めていく。	○			・「自分の考えを発表する」に課題が見られたとのこと，高校入試でも今後自己表現力が求められてきます。授業の中でそういう場を意識的に設定することも必要だと思います。
		◎ICT教育の充実・推進体制の確立 ★ICT教育の充実 ★校内の推進体制の確立	○クロームブック等を活用した，ICT教育の計画の作成 ○ICTについての校内研修を実施し，知識の共有と工夫・改善	○各学年の学習計画の作成・共有化 ○学期に1回以上のICTについての校内研修の実施	100	100%		100%	A	1学期には，各学級でICTを活用した研究授業に取組むことができた。クロームブック等を活用した授業や活動などの各学年の実践をまとめてきた。1学期には，校内でICT研修を2回以上，また外部から専門の方を招いた研修を実施することができた。今後は，実践や活用例を整理し，学年のまとめを校内で集約していく。	今後も，ICTの有効的な活用を目指し，多様な教科の実践を積み重ね，各学年で整理したことを学校全体で集約していく。また，2・3学期にも定期的に校内研修でICTについて学びを進めていく。	○			・ICTの活用に積極的に取組まれていると感じました。
豊かな心	地域を愛する心をもつとともに，夢や目標をかなえるための生活習慣を身に着けさせる。	◎考え議論する道徳の推進 ★授業が楽しい95%以上	○問題解決型の指導過程等，指導過程の工夫	道徳科が楽しいと思う児童の肯定的割合	95	92		96%	B	「道徳科が楽しい」という肯定的評価が92%だった。道徳科の授業改善を進めてきた結果である。道徳の授業を楽しみにしている児童の割合は高い。	楽しみにしている児童の意欲に合わせて，自分の生き方をじっくりと考えていけるような指導方法の工夫を継続していく。	○			・道徳科が楽しいという児童が多いのは，素晴らしいことだと思います。 ・学校としての授業改善の成果だと思います。 ・迅速な対応や取組ができたことを評価し，風通しのよい教育環境を継続してください。
		◎道徳教育・生徒指導の小中連携。 ○道徳時間と体験活動の結びつけ ★自己肯定感90%以上 ★感謝の気持ちの表現95%以上	○児童会活動の主体的活動充実 ○目標となる具体的な姿の提示 ○強化週間の実施 ○児童会活動との連携	○自分にはよいところがあるという児童の肯定的割合 ○感謝の気持ちを表している児童の肯定的割合	85 95	80 93		94% 98%	B	昨年度同様，自己肯定感をもつことができにくい児童が2割いる。コロナ禍の中，他者との交流に制限があることが考えられる。また，地域との交流も制限され，直接感謝の気持ちを伝える場が減少していることが影響していると考える。	今後は，意図的に児童を評価する場を設定するとともに，一人一人が置かれている背景や課題を明確にし，個別に支援を行っていく。また，道徳科の授業や児童会の取組を通して多くの支えがあることに気付かせていく。	○			
		○コミュニティースクールの導入にむけた，地域（人・もの）を活用した学習の推進 ★GT招聘，地域学習の推進	○地域ゲストティーチャーや読書ボランティアなどを積極的に活用 ○各教科，道徳の時間，総合的な学習の時間等で地域活用学習の導入	各学期ごとに学年で地域学習，ゲストティーチャーを積極的に活用した割合	100	100%		100%	A	各学年が年間計画に地域活用学習を導入し，計画していたが，コロナ渦のため，地域ゲストティーチャーの積極的な学習は十分にできなかった。しかし，リモートやお手紙，調べ学習を活用し，地域学習は進めてきている。	今後は状況を踏まえながら，可能な限りゲストティーチャーを活用し，地域学習を進めていく。また，リモート学習等ICTを活用した連携の方法も進めていく。	○			
		◎いじめ・完全不登校の根絶 ★いじめ0，完全不登校児0	○家庭との連携 ○支持的風土の学級経営	いじめ・完全不登校児童の数値	0	いじめ1件 不登校3名		0%	D	生徒間暴力事案は1件・いじめ事案は1件(1学期)である。児童のおかれている状況を見逃さず，早期の取り組みを継続してきた。30日以上欠席した不登校児童は3名である。積極的に家庭と連携していく。	今後もいじめに関わって積極的認知を行い，早期発見・迅速な取組を継続していく。 問題行動に対しては，毎日の問題行動等の全体共有の場は継続していくとともに，積極的生徒指導を進めていく。	○			
健やかな体	体力を高め，食に対する高い意識を育てる。	◎体力の向上 ★体力テスト　握力　平成31年度全国平均以上の 児童の割合　70% ★体力テスト　20mシャトルラン　平成31年度 全国平均以上の児童の割合　70%	○体育科授業の運動量の保障，工夫改善 ○鉄棒，縄跳びの継続的な実施	体力テスト　握力，20mシャトルランの全国平均を上回る児童の割合（%）	70	42%		60%	C	今年度，5年生のみ体力テストを実施した。平成31年度の握力，20mシャトルランの全国平均値を上回った児童は，36%であった。また2学期に入ってから全校の握力を計測した。全国平均を上回った児童は，42%であった。児童の運動量の保障をし，体力の向上を図っていくことが必要である。	体育の時間において，鉄棒，縄跳び，サーキットに継続して取り組み，児童の運動能力の向上を図る。外遊びを奨励し，休憩時間も児童の運動量を保障する。	○			・給食時間が短いことや食の細い子どもがいることも考慮して，無理のない指導をお願いします。 ・縦割り掃除は，効果的な取組だと思います。
		◎食育の推進 ★残菜0の推進0の日週3日	○食育指導・保護者啓発活動の実施 ○集中取り組み期間の実施	集中取り組み期間に残菜0（週3日以上）にしたクラスの割合（%）	90	58%		64%	C	残菜0（週3日以上）90%の目標に対して58%という結果であった。児童が苦手な料理として和食，野菜を使った料理の日は残菜が多い傾向がある。継続して，残菜が少なくなるように日々の給食指導に取り組む。	毎日の給食指導で，食べられる量の調節を行うこと，苦手な料理の場合には，少しでも食べるように指導をしていくことを継続していく。	○			
		○清掃活動の質の向上 ★無言，時間いっぱい，隅々	○掃除の仕方の指導の徹底 ○短期集中取組期間の設定	3つの項目を達成した縦割り班の割合（%）	80	72%		90%	A	今年度，コロナ禍ということもあり，縦割り班掃除が十分にできていないが学級掃除に取り組んでいる。短期集中取り組み期間では，70%以上が無言，時間いっぱい，隅々まで掃除に取り組むことができている。	11月から縦割り班掃除の再開を行う予定である。高学年が低学年に掃除の仕方を教え，時間いっぱい無言清掃に取り組み，児童の掃除への意欲を育てていく。	○			
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに，15年間を見据えた教育を行う。	◎情報を公開し，説明責任を果たし，満足度向上 ★月1回以上，学校だより・生徒指導だよりの発行	○学級通信，学校だより，ホームページでの情報発信 ○学級懇談会，個人懇談会をとおして説明責任を果たす。	行事や家読の後，保護者へのアンケートと感想による子供の成長への満足度の割合（%）	90	90%		100%	A	行事が行われず，保護者の声を聞く機会を設けることができていない。日常の子どもたちの様子は学年，学校便り，ホームページ等で積極的に伝えている。学級懇談会は学期に一度行ってきている。 情報発信は「すぐーる」で素早く，的確に伝えられるようになった。	2学期予定されている行事では，保護者の感想を集約できるようにし，今後の取り組みに生かしていく。 ICTを活用した情報発信を積極的に行っていく。	○			・積極的に情報発信を行っていると思います。 ・業務内容を考えると100%達成には困難さがあるかと思います。コロナによって見直すきっかけとなった行事のあり方(持ち方）は市内の学校の課題かと考えます。
		○タイムリーな服務研修の実施 ★時期に応じた研修内容，全職員の担当割り当て	○不祥事防止委員会が中心となり，マンネリ化，無自覚がない内容を計画	服務や仕事に対する職員への意識を向上させる。満足度の割合（%）	80	80%		100%	A	研修は計画的に行われてきている。不祥事防止委員会で毎月の状況を交流してきた。また，組織的な取組と職員間の連携を日常的に行ってきた。服務や仕事に対する職員の満足度は80%である。	年間計画に沿って継続して研修していくとともに，タイムリーな研修も設定していく。組織的な取組を行い，業務改善を行っていく。	○			
		◎働き方改革 ★次世代の働き方への体制づくり	○時間外勤務の短縮 ○計画的な定時退校日の実施	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100	67%		67%	C	本格実施された校務運営システムやコロナ対策等も含め増加した業務に対して，効果的な改善策が十分にできていないところがある。成績処理の時間確保等を行い，職員の80%以上が効果的であったと答えている。	思い切った業務改善策の案も検討していきながら，次世代に向けた働き方改革を組織的に進めていく。	○			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：わからない。
ハ：自己評価は適正でない。